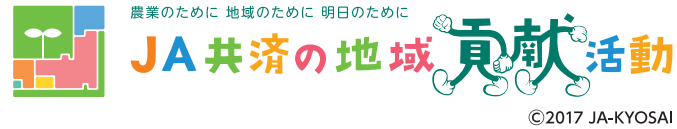


JA共済 地域貢献活動 REPORT 2022



<https://social.ja-kyosai.or.jp/>



お問い合わせ先
全国共済農業協同組合連合会 (JA共済連)
全国本部 農業・地域活動支援部 地域貢献運営グループ
〒102-8630 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA共済ビル



JA共済 地域貢献活動アンバサダー
ティモンディ
(左:前田裕太、右:高岸宏行)

はじめに

JA共済は、組合員・利用者の皆さまが、住み慣れた地域で、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献するために、地域の皆さまとの絆を大切にしながら、共済事業と地域貢献活動に取り組んでいます。

本冊子では、JA共済が取り組むさまざまな地域貢献活動を紹介します。

JA共済の使命

- JA共済は、農業協同組合が理念とする「相互扶助」を事業活動の原点とし、常に組合員・利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」を提供します。
- JA共済は、最良の保障・価格・サービスによる「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供を通じて、組合員・利用者の豊かな生活づくりに努めます。
- JA共済は、事業活動の積極的な取り組みを通じて、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献します。

JA共済の取り組み

JA共済は保障の提供と地域貢献活動を通じて、地域社会へ「安心」と「満足」の輪を広げていきます。



JA共済のSDGsへの取り組み

私たちJA共済は、「一人は万人のために、万人は一人のために」という「相互扶助(助け合い)」を事業理念に、保障の提供と地域貢献活動を通じ、組合員・地域の皆さまが豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざしてきました。

このような取り組みの一つひとつが、SDGsの実践そのものであり、SDGsがめざす世界の実現につながると考えています。

JA共済の事業活動



「一人は万人のために、万人は一人のために」豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくり

SDGsがめざす世界



「誰一人取り残さない」世界の実現



JA共済のSDGs取組方針

保障・サービスの提供や地域貢献活動等の事業活動を実践し、JA共済の事業基盤である農業と地域社会の持続可能性を確保します。

1. 健康で豊かな生活への貢献

保障提供をはじめ、健康管理・増進や介護・福祉に資するサービスおよび地域貢献活動の取り組みにより、健康で豊かな生活づくりに貢献します。

貢献する主なSDGs目標



2. 安全・安心を実感できる地域社会づくり

保障提供をはじめ、防災・減災・事故防止に資するサービスおよび地域貢献活動の取り組みにより、安全で安心を実感できる地域社会づくりに貢献します。

貢献する主なSDGs目標



3. 持続可能な農業への貢献

農業振興・農業者所得増大・農業リスク軽減に資する保障・サービスや地域貢献活動の取り組みにより、持続可能な農業に貢献します。

貢献する主なSDGs目標



4. 地球環境への貢献

温暖化防止や環境保護に資する取り組みにより、気候変動に代表される地球環境問題の解決に貢献します。

貢献する主なSDGs目標



数字で見るJA共済の取り組み

共済事業と地域貢献活動を通じて、皆さまにお役立ていただきました。

共済事業

ひと・いえ・くるまの総合保障

充実した保障の提供を通じて、
皆さまの毎日の暮らしに安心をお届けしています。





 ひとの保障	<ul style="list-style-type: none"> ●生命総合共済(保有契約) 加入件数…………… 2,202万件 保障共済金額…………… 91兆1,021億円
 いへの保障	<ul style="list-style-type: none"> ●建物更生共済(保有契約) 加入件数…………… 937万件 保障共済金額…………… 140兆3,483億円
 くるまの保障	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済(保有契約) 加入件数…………… 824万件 ●自賠責共済(保有契約) 加入台数…………… 657万台
お役立て いただいた 共済金	令和3年度(令和4年3月末まで) にお支払いした共済金…………… 3兆8,143億円 万一のときや満期のときなどに共済金をお支払いすることで、 多くの皆さまにお役立ていただきました。

■令和4年3月末実績

地域貢献活動

ひと、いえ、くるま、くらし・営農に関する
地域貢献活動

健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりのために、
さまざまな活動を展開しています。

 ひと 分野の活動	<ul style="list-style-type: none"> ●レインボー体操 これまでの参加人数…………… 77万人以上 ●笑いと健康教室 これまでの参加人数…………… 11万人以上
 いえ 分野の活動	<ul style="list-style-type: none"> ●災害シートの無償配布 これまでの配布枚数…………… 29万枚以上 ●災害キットの無償配布 これまでの配布セット数…………… 5万セット以上 ●仮設住宅の無償貸与 これまでの貸与棟数…………… 2,200棟以上
 くるま 分野の活動	<ul style="list-style-type: none"> ●世代別交通安全教室(幼児向け/生徒向け/シルバー世代向け) これまでの参加人数…………… 304万人以上 ●安全運転診断(シルバー世代向け/全世代向け) これまでの参加人数…………… 10万人以上
 くらし・営農 分野の活動	<ul style="list-style-type: none"> ●小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクール これまでの応募点数 書道…………… 6,012万点以上 交通安全ポスター…………… 952万点以上

■令和4年3月末累計実績



「地域・農業活性化」に向けた自己改革の取り組み

約1,200万人の方々に参加していただきました

JAグループでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」としての社会的役割を果たすため、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に不断の自己改革を進めています。

これを踏まえ、JA共済では、平成28年度に「地域・農業活性化積立金」を創設し、従来から行っていた健康管理・増進活動や災害救援、交通事故対策活動などの「ひと」「いえ」「くるま」分野の地域貢献活動に加え、地域の実情に応じた「くらしや営農」に関するさまざまな活動に、JAと一体となって取り組んできました。

平成28年度から令和3年度の6年間における各領域の活動件数は約2万8,000件(累計)にのぼり、イベントなどの活動には約1,200万人(のべ)の方々に参加していただきました。

地域・農業活性化積立金を活用した各領域の活動実績

主な取り組み	活動実績
食育イベントの開催、農業体験の実施	〈参加人数〉 約170万人
農作業効率化に向けた先進機器等の寄贈	〈寄贈先〉 898か所 (うちドローン81台)
農業高校・農業大学校への農作業機械等の寄贈	〈寄贈先〉 206校
地域特産物のPRイベントの開催、資材作製等	〈活動件数〉 978件
JAまつり等の開催・協賛	〈参加人数〉 約622万人
地産地消促進活動への支援	〈活動件数〉 445件
中央会・担い手サポートセンターを通じた活動支援	〈活動件数〉 51件
直売所におけるイベントの開催	〈参加人数〉 約41万人
直売所の設備強化	〈活動件数〉 402件
新規就農・労働力不足への支援	〈活動件数〉 160件
鳥獣被害対策	〈活動件数〉 1,257件

営農分野 (農業全般)

- 農業振興活動

くらし分野

- 生活支援活動
- 協同活動
- 文化支援活動
- 環境保全活動

主な取り組み	活動実績
移動購買車の寄贈	〈寄贈数〉 123台
救急自動車の寄贈	〈寄贈数〉 34台
子育て支援イベントの開催	〈参加人数〉 約65万人
高齢者生活支援の実施	〈活動件数〉 947件
女性大学・婚活等 各種イベントの開催	〈参加人数〉 約51万人
防犯カメラの寄贈	〈寄贈数〉 1,401台
スポーツ大会の開催・協賛	〈参加人数〉 約152万人

ひと分野

- 健康管理・増進活動
- 介護・福祉活動

主な取り組み	活動実績
検診車の寄贈	〈寄贈数〉 16台
血圧計の寄贈	〈寄贈数〉 1,106台
AEDの寄贈	〈寄贈数〉 880台
健康教室・イベントの開催・助成・協賛	〈参加人数〉 約47万人
健康診断・人間ドック等の助成	〈参加人数〉 約51万人
車いすの寄贈	〈寄贈数〉 898台
介護予防教室の開催(デイサービス含む)	〈参加人数〉 約4万人

いえ分野

- 防災・防火対策活動

主な取り組み	活動実績
防災教室・イベントの開催	〈参加人数〉 約29万人
防災用品の寄贈等	〈活動件数〉 419件

くるま分野

- 交通事故未然防止活動
- 交通事故被害者支援活動

主な取り組み	活動実績
交通安全指導車の寄贈	〈寄贈数〉 154台
交通安全啓発資材の寄贈等	〈活動件数〉 348件
交通安全教室・イベントの開催	〈参加人数〉 約16万人

活動件数(累計) 約2万8,000件

参加人数(のべ) 約1,200万人




SDGsがめざす世界の実現に向けた

JA共済の地域貢献活動を紹介します

9~12

1 健康で豊かな生活への貢献

健康管理・増進や介護・福祉に資する取り組みにより、健康で豊かな生活づくりに貢献します。

-  健康管理・増進に向けた取り組み
-  交通事故被害者の社会復帰支援に向けた取り組み
-  次世代を担う子どもたちの文化支援に向けた取り組み




地域貢献活動で実践しているSDGs目標



13~18

2 安全・安心を実感できる地域社会づくり

防災・減災・事故防止に資する取り組みにより、安全で安心を実感できる地域社会づくりに貢献します。

-  防災・減災に向けた取り組み
-  災害救援・復興支援に向けた取り組み
-  交通事故未然防止に向けた取り組み



地域貢献活動で実践しているSDGs目標



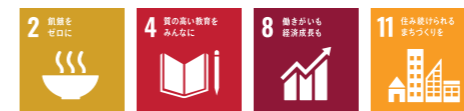
19~22

3 持続可能な農業への貢献

農業振興・農業者所得増大・農業リスク軽減に資する取り組みにより、持続可能な農業に貢献します。

-  農作業事故未然防止に向けた取り組み
-  県域における農業の活性化に向けた取り組み


地域貢献活動で実践しているSDGs目標



23~24

4 地球環境への貢献

温暖化防止や環境保護に資する取り組みにより、気候変動に代表される地球環境問題の解決に貢献します。

-  フード・マイレージ低減に向けた「地産地消」支援の取り組み

地域貢献活動で実践しているSDGs目標



25~36

5 地域の実情に応じたさまざまな地域貢献活動

協同の力で助け合いの輪を日本中に

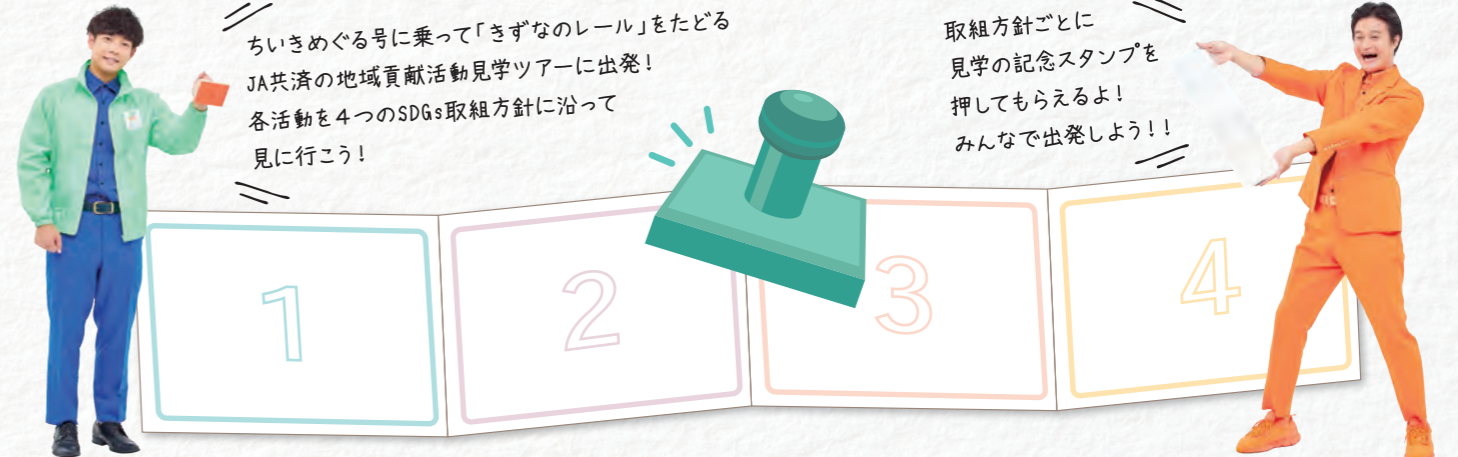


安全・安心な地域社会の実現や皆さまの健やかな生活を守るために、全国各地で地域の実情に応じたさまざまな活動に取り組んでいます。



ちいさめぐる号に乗って「きずなのレール」をたどる
JA共済の地域貢献活動見学ツアーに出発！
各活動を4つのSDGs取組方針に沿って
見に行こう！

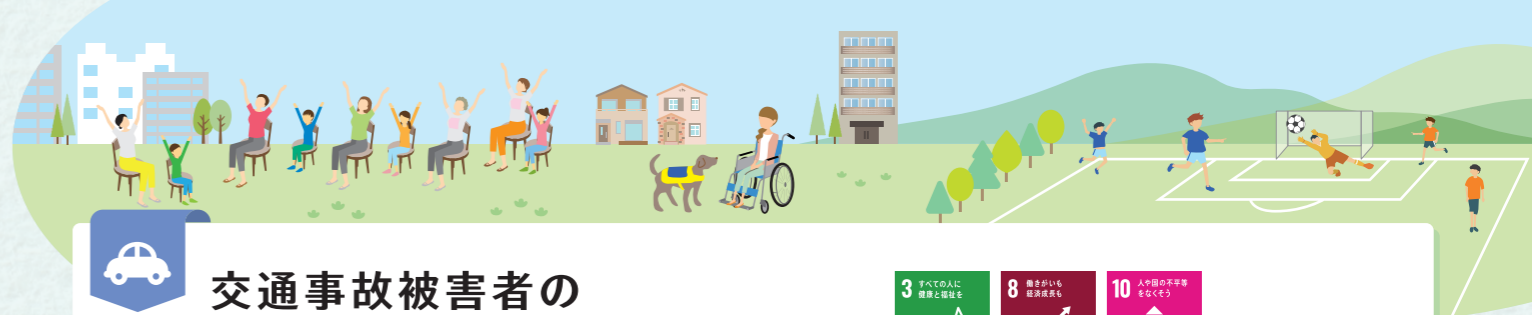
取組方針ごとに
見学の記念スタンプを
押してもらえよ！
みんなで出発しよう！！



1

健康で豊かな生活への貢献

健康管理・増進や
介護・福祉に資する取り組みにより、
健康で豊かな生活づくりに貢献します。



健康管理・増進に向けた取り組み



レインボー体操の普及

心臓に負担をかけないやさしい動きで、全身の血液の流れをよくするJA共済オリジナルの健康体操です。立っても、座っても、寝てもできますので、体力に自信のない方や高齢者にも安全に行っていただけます。いろいろな音楽に合わせて楽しく体を動かしながら、病気予防・健康づくりを推進しています。



笑い与健康教室の開催

「笑い」が心や体によいということは医学的にも証明されつつあり、最近では病気の予防や治療においても注目されています。健康増進活動のひとつとして「笑い与健康」の関係に着目したプログラムを開発し、「笑い」の効果とその仕組みについて学び、実際に体験する「笑い与健康教室」を開催しています。



ちょいムズチャレンジの開催

親子で体を動かす楽しさを体感していただく運動プログラムです。「幼児期運動指針」(文部科学省)に基づく「幼少期に身につけたい36の基本動作」のうち「なげる」「うつ」「ける」の3つの動作を中心に、ゲーム形式で遊びながら体験するイベントを開催しています。



健康・介護ほっとラインの開設

生活習慣病予防や肥満などの健康相談、医療機関の情報提供、育児・介護などのご相談を専門スタッフがフリーダイヤルでお受けしています。

シアワセイチバン コンサルタント

0120-481-536

無料 受付時間 24時間・365日

看護師・介護支援専門員(ケアマネジャー)・医師(精神科・心療内科を除く)・栄養士による親身な応対

●お名前は伺いませんので安心してご利用ください。



交通事故被害者の社会復帰支援に向けた取り組み



社会復帰支援のためのリハビリテーションセンターの開設

静岡県の中伊豆と大分県の別府に交通事故などによる身体障がい者の社会復帰支援を目的としたリハビリテーションセンターを開設しています。これら2つのリハビリテーションセンターは、「病院」「福祉施設」「介護施設」の3つの機能を持った全国でも数少ない総合型の施設です。昭和48年の設立以来、「身体障がい者のしあわせ」と「福祉社会の建設に寄与すること」を理念として交通事故被害者などの社会復帰をお手伝いしています。



社会福祉法人 農協共済
中伊豆リハビリテーションセンター



社会福祉法人 農協共済
別府リハビリテーションセンター

介助犬の育成・普及支援

交通事故などにより手足に障がいのある方の日常生活を介助する「介助犬」の育成・普及支援に取り組んでいます。社会福祉法人 日本介助犬協会の事業の支援や、NPO法人 日本補助犬情報センターへの研究支援、介助犬によるデモンストレーション「ガンバレ! 介助犬! JA共済はたらくワンワンランド!」を開催しています。



ペットボトルも
わたせるよ!



健康や介護に関する相談、交通事故被害者の支援までさまざまな方面から健康をサポートしていることがわかります!



1 健康で豊かな生活への貢献



次世代を担う子どもたちの文化支援に向けた取り組み



小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクールの開催

次世代を担う小・中学生の皆さまに、「相互扶助」と思いやりの大切さを伝えるとともに、書写教育に貢献することを目的に書道コンクールを開催しています。また、交通安全への意識を高め幅広く社会に呼びかけることを目的に交通安全ポスターコンクールを全国ならびに各都道府県にて開催しています。

令和3年度で、全国コンクールは書道65回、交通安全ポスター50回を数えます。日本最大級の規模を誇り、何世代にもわたり多くの方にご応募いただいています。



日本リトルリーグ野球協会・日本リトルシニア中学硬式野球協会への協賛

「野球というチームプレーを通じて健全な社会性を養い、強健な身体と健全な精神の涵養に寄与すること」などを目的とした公益財団法人日本リトルリーグ野球協会および一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会の活動に協賛し、子どもたちの健康で健全な心身の育成に貢献しています。



全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクールへの協賛

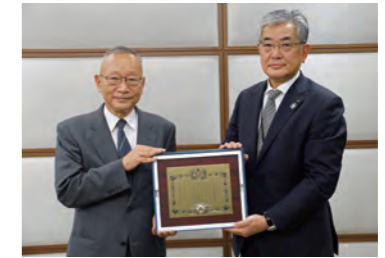
「小・中学生の豊かな人間性の育成や体力の向上」を目的とした全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクールの活動に協賛し、助け合い・支え合いの大切さを次世代に伝えています。



コラム

「げんきなカラダ」づくりを応援！ 誰もが健康で豊かに年を重ねられる社会をめざして

人生100年時代の今、JAグループでは「JA健康寿命100歳プロジェクト」に取り組んでいます。平成22年から始まったこのプロジェクトは、高齢期を迎えても介護を必要とせず、毎日を元気に過ごせる「健康寿命」を100歳までのばすことをめざすものです。



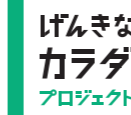
令和3年12月「金色有功章」を受賞しました

JA共済でも、皆さまの健康管理・増進をサポートするため健康啓発・増進に向けたさまざまな活動を展開するとともに、役職員による献血活動に積極的に取り組んでいます。この活動は、令和3年で50年目を迎え、日本赤十字社から最高位の表彰となる「金色有功章」を受賞しました。



また、健康に関するさまざまなお役立ち情報の配信や気軽に参加できるイベントなどを通じて、皆さまの「げんきなカラダ」づくりを応援する「げんきなカラダプロジェクト」も展開しています。

JA共済はこのような取り組みを通じて、皆さまが健康で豊かな生活を送ることができるよう貢献していきます。



「げんきなカラダプロジェクト」のご紹介！

仕組みによる保障とリスク予防・未然防止に資するサービスを一体的に提供し、皆さまに「切れ目なく寄り添う」ため、「げんきなカラダプロジェクト」を展開し、健康増進に関する幅広いサービスを提供しています。

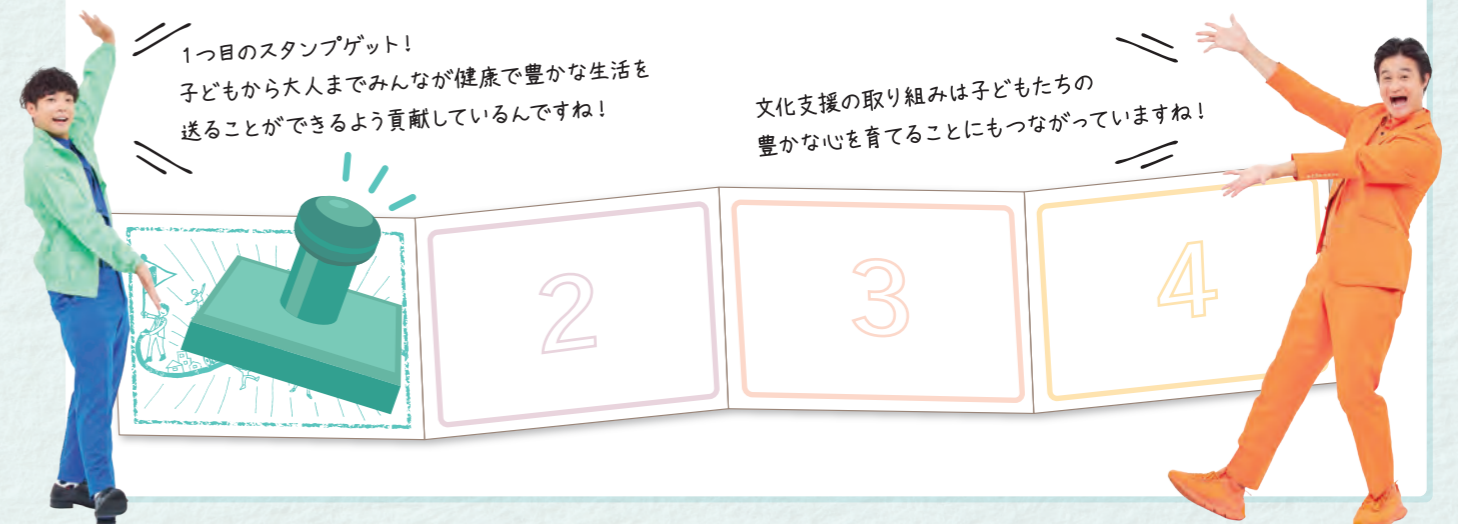
令和4年4月には、「認知症共済」の新設に合わせて脳トレ・脳年齢チェックなどのコンテンツや、オンライン形式の運動トレーニングサービス、食事管理アプリなどを追加し、認知機能の維持・向上のサポートを行っています。

また、認知症に関する検査や、認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)のスクリーニング検査を受けられる医療機関も紹介しています。



1つ目のスタンプゲット！
子どもから大人までみんなが健康で豊かな生活を
送ることができるよう貢献しているんですね！

文化支援の取り組みは子どもたちの
豊かな心を育てることにもつながっていますね！



安全・安心を 実感できる 地域社会づくり

防災・減災・事故防止に資する
取り組みにより、安全で安心を実感できる
地域社会づくりに貢献します。



防災・減災に向けた取り組み



ザブトン教授の防災教室の開催

イス型の地震動体験装置「地震ザブトン」で過去に起こった地震のリアルな揺れを体験し、家具固定など日頃から地震に「備える」ことの必要性を再認識していただく体験学習型プログラムに参加できるイベントを開催しています。



●プログラムの流れ



1. 導入

スタッフによる説明。
「大地震が来たらどう行動するか」について考える。

2. 感じる

地震ザブトンに乗り
過去の地震を体験する。

3. 学ぶ

クイズ形式のパネルで
家の中の安全対策について学ぶ。

4. 備える

おさらいカードを持ち帰り、家での備えにつなげる。



災害救援・復興支援に向けた取り組み



災害シートの無償配布※

自然災害などでお住まいが壊れてしまった方に、JAを通じて災害シートを無償で配布しています。
東日本大震災、熊本地震などでも災害シートをお配りし、災害からの復興に向けたサポートをしました。



災害キットの無償配布※

自然災害などで被害を受けられた方に、JAを通じて災害キットを無償で配布しています。
九州地方で発生した令和2年7月豪雨などでも、災害キットをお配りしました。



仮設住宅の無償貸与※

火災などで自宅に居住できなくなった方に、仮設住宅を8か月間無料で貸与しています。
住宅にはキッチン・トイレ・お風呂など、暮らしに必要な設備をあらかじめ備えています。



※JA共済のご契約者さまで一定の要件を満たす場合に限りです。

東北ユースオーケストラへの活動支援

東日本大震災の被災三県(岩手県・宮城県・福島県)出身の子どもたちを中心に構成され、音楽家の坂本龍一氏が代表・監督を務める東北ユースオーケストラ(TYO)に協賛し、「震災からの心の復興」に向けた活動を支援しています。



2 安全・安心を実感できる地域社会づくり



交通事故未然防止に向けた取り組み



JA共済の交通安全の取り組みの一部は、自賠責共済の運用益を活用して実施しています。

〈幼児向け〉

JA共済アンパンマン交通安全キャラバンの開催

「JA共済アンパンマン交通安全キャラバン」が全国を巡回し、歌や踊りを通じて幼児に交通ルールを伝えます。

小さなお子さまに人気のJA共済のイメージキャラクター「それいけ！アンパンマン」。アンパンマンたちといっしょに交通ルールを学び、親子で交通安全について考える時間を提供しています。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

親と子の交通安全ミュージカル 魔法園児マモルワタルの開催

就学前の幼稚園・保育園児と保護者を対象とした、ミュージカル形式の交通安全教室を全国各地で開催しています。

このミュージカルは、舞台の上の横断歩道で園児が実際に体験できるなど、客席の園児と保護者の皆さまと舞台がひとつになって、楽しみながら交通ルールを学べる構成となっています。



〈生徒向け〉

自転車交通安全教室の開催

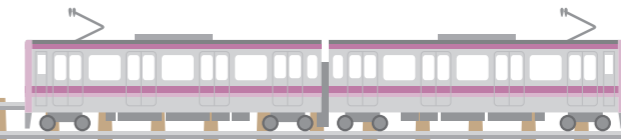
中学校や高等学校で行われる交通安全教室の際、スタントマンによる危険な自転車走行にともなう交通事故の実演で、危険性を疑似体験させる教育手法(スクエアード・ストレイト方式)を警察などと連携し、推進しています。



〈全世代向け〉

自転車安全運転診断の実施

自転車事故防止を目的として、全世代を対象に、自転車シミュレーターを搭載した自転車安全運転診断車「すまいる号」を全国に派遣し、巡回型の自転車の安全運転診断を行っています。約5～10分程度の体験で自転車乗用中の交通ルールや危険予測を実践的に学習できます。



交通事故を防ぐ取り組みはそれぞれの世代ごとに実施しているんですね！



みんなの安全を守っていることがわかりました！

2 安全・安心を実感できる地域社会づくり



〈シルバー世代向け〉

交通安全教室の開催

高齢者の交通事故を防ぐために、「シルバー世代向け交通安全教室」を開催しています。JA共済オリジナルの「交通安全落語」で笑いながら交通安全の意識を高め、誰でも楽しく参加できます。



自動車安全運転診断の実施

高齢ドライバーの交通事故を防ぐために、ドライビングシミュレーターを搭載した自動車安全運転診断車「きずな号」を全国に派遣し、巡回型の安全運転診断を行っています。令和3年度は、高齢ドライバーの交通事故発生状況をふまえ、動体視力や判断力など運転に必要な能力を測る「運転能力診断」と、運転中の危険予測能力や運転操作、法令順守の状況を測る「安全運転診断」の機能を拡充しました。

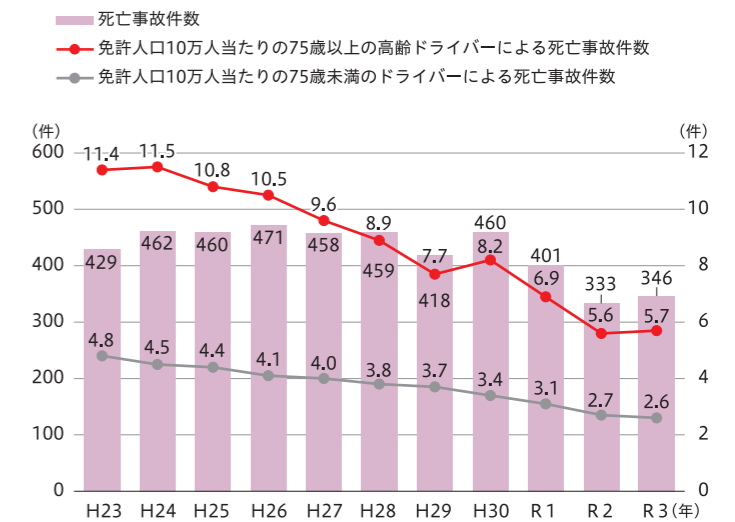


コラム

依然として高い数値で推移している高齢ドライバーによる死亡事故件数

令和4年に警察庁が発表したデータによると、令和3年の75歳以上の高齢ドライバーによる死亡事故の件数は346件。発表されている直近11年の数値を見ると減少傾向にありますが、免許人口10万人当たりの75歳以上のドライバーと75歳未満のドライバーの死亡事故件数を比較すると、依然として高い数値で推移しています。

●75歳以上の高齢ドライバーによる死亡事故件数の推移



(注) 第1当事者が原付以上の件数である。
算出に用いた免許人口は、各年12月末の値である。
参考：警察庁ウェブサイト

危険運転撲滅のための動画・冊子を制作

近年、危険運転として社会問題化している高齢ドライバーによる「高速道路の逆走」と「ペダル踏み間違い」に対する注意や対処法をお伝えする動画とパンフレットをホームページ上に公開しています。



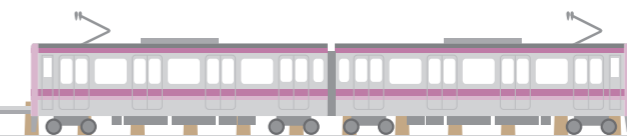
「JA共済の想い×風見しんごの想い 交通安全の手紙〜いつまでも安全運転を続けるために〜」の動画を制作

少しの気配りと思いやり、そして余裕をもって運転することで交通事故につながる危険性を減らすことができます。JA共済と風見しんごさんから高齢ドライバーの皆さまへ向けた、交通安全に対する想いの詰まった動画をホームページ上に公開しています。



ふむふむ…
大切な命を守るための知識を
学ぶことができるんですね！
2つ目のスタンプをいただきました！

防災・減災や交通安全など
安全・安心につながる
情報も発信しているんですね！



3 持続可能な農業への貢献

農業振興・農業者所得増大・農業リスク軽減に資する取り組みにより、持続可能な農業に貢献します。



2 農作業事故未然防止に向けた取り組み

農作業事故体験VR※を活用した学習プログラムの展開



※VR:バーチャル・リアリティ

農作業事故の未然防止を目的に、当事者の視点から農作業中の事故を疑似体験できる「農作業事故体験VR」を活用した学習プログラムを、全国のJAにおける研修会やイベント、農業関連団体による講習会などで展開しています。
令和4年度には、新たに「脚立 転落編」、「農用運搬機 転倒・積み降ろし作業編」の2つのコンテンツを農研機構と共同で開発しました。



「脚立 転落編」



「農用運搬機 転倒・積み降ろし作業編」

TOPICS 農作業事故を疑似体験する取り組みとしてグッドデザイン賞を受賞

“農作業事故を自分ごと化できるVR”というコンセプトが事故未然防止に有用であるという高い評価を受け、公益財団法人 日本デザイン振興会が運営する「2020年度グッドデザイン賞」を受賞しました。



共済金支払データによる農作業事故の発生状況を分析し農作業事故の実態を公表



農業者が安心して農業に従事できるよう保障の提供とともに、農作業事故未然防止に向けた活動を行っています。
平成29年から令和2年までの共済金支払データ2万1,634件を用いて、直近の農作業事故の発生要因や事故傾向について分析し、結果および詳細をホームページ上に公開しています。

コラム

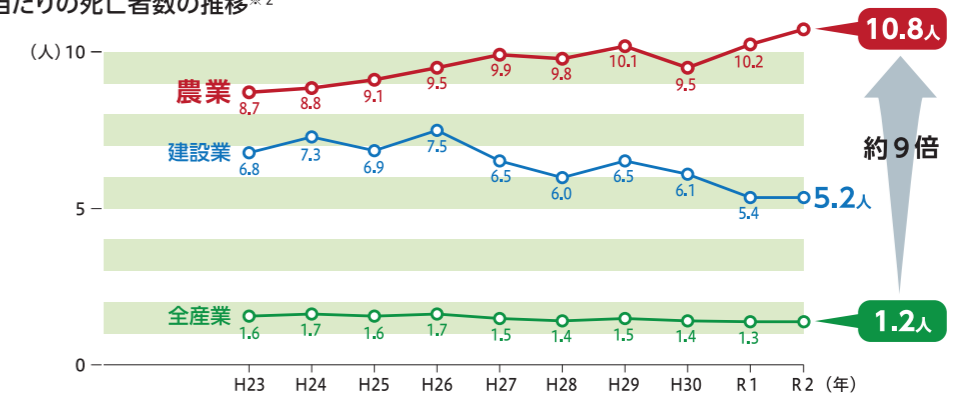
農作業事故を防止して持続可能な農業を！

農作業事故の年間発生件数は約7万件^{*1}といわれています。
農林水産省が発表した令和2年の農作業事故死者数は270人。就業人口10万人当たりの死者数は、農作業と同じように機械を使用する建設業と比べても約2倍、全ての産業と比較すると、約9倍にもなります。農作業にはさまざまな危険がひそんでいるのです。

農作業事故のなかでも、重大事故につながりやすいのが農業機械での事故です。令和2年に発生した農作業中の死亡事故のうち約69% (186人)が、乗用型トラクターなど、農業機械での作業中に発生した事故で命を落としています。農業者の尊い命を守るためにも、農作業事故への対策は、喫緊の課題となっています。

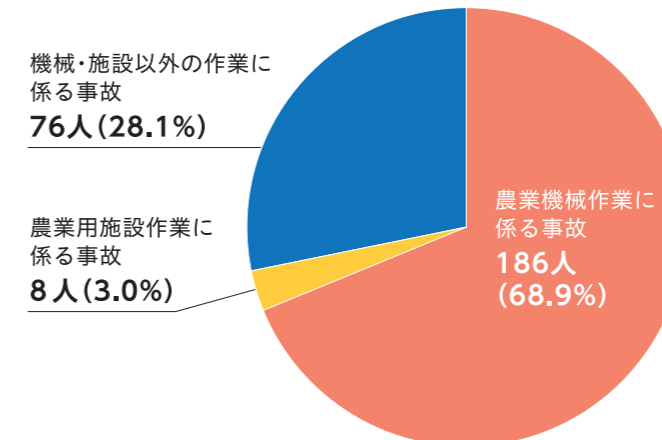
JA共済としてもこの課題解決に貢献するため、直近の農作業事故データを分析して公表するほか、VRによって農作業事故を疑似体験できる学習プログラムを開発し、農業者のリスク軽減や事故回避につながる活動に取り組んでいます。

●10万人当たりの死者数の推移^{*2}



※1 JA共済による推計
※2 死者数:農作業死亡事故調査(農林水産省)、死亡災害報告(厚生労働省)
就業人口:農林業センサス、農業構造動態調査(農林水産省)、労働力調査(総務省)

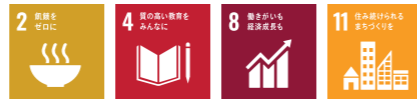
●要因別の死亡事故発生状況(令和2年)



参考:農林水産省ウェブサイト



県域における 農業の活性化に向けた取り組み



農作業効率化の支援

農作業の軽労化・効率化支援を目的に、先進機器等(ドローンなど)を寄贈しています。農作業時の負担軽減や、作業時間の短縮を図ることで、農業者の所得増大・農業生産の拡大に貢献しています。



農業高校等への支援

農業の担い手育成支援を目的に、農業大学校や農業高校等に対し実習用の農業機械・機具などを寄贈しています。学習環境の整備を図ることで、将来の農業後継者の人材育成に貢献しています。



地域産品の生産拡大の支援

地域農業の活性化を目的に、地域の特性をいかした地域産品の生産振興の取り組みを支援しています。農業者の所得向上や新たな担い手の参入に向けた取り組みを通じて、地域農業の活性化に貢献しています。



農業の活性化に向けて、新たな担い手の力が
必要です!

3つ目のスタンプゲット!
国産の農産物を選んで
おいしく食べることで
日本の農業を応援しよう!

コラム

今こそ「国消国産」! 日本の農家と食卓を守ろう

「食糧危機」について、皆さまはどれくらい身近に感じていますか? 令和4年は、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻にともない、小麦の国際価格が急騰。私たちが口にする食品や飲料も値上げが目立ちました。日本では、消費する食料の6割以上を海外からの輸入に頼っています。輸入に依存したままでは、私たちの食べるものがなくなってしまうかもしれません。また輸入は、ときに他国から食料をうばってしまう可能性があり、間接的に飢餓を生み出してしまう危険性もあります。世界中の人々が安心して豊かな食生活を送るためには、自分の国で消費する食べ物を、できるだけ自分の国で生産できるよう、農業などの一次産業を応援することが重要です。

「国消国産」とは?

世界中で、自然災害の発生や人口増加など、私たちの食を取り巻くリスクが年々高まっているなか、日本では農業者の数が減少するとともに高齢化が進んでいます。日本の令和2年度の食料自給率(カロリーベース)は37%※で過去最低の数値です。これらの課題を受けて、JAグループでは「国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する」という「国消国産」の推進に取り組んでいます。生きるために必要な「食」を生み出す日本の農業を未来につないでいくために、国産の農産物を買って食べるなど、一人でも多くの人が「国消国産」への理解を深め、行動していくことが重要です。

※ 令和2年度食料需給表(農林水産省)

イベント等で地域の農産物をPR

各県でも農産物の直売所や収穫体験施設を巡るイベントを開催したり、地域で生産した新米を「こども食堂」へ寄贈するなど、さまざまな取り組みを行っています。東京都千代田区のJA共済ビルでは全国から仕入れた旬の農産物を販売する「JA共済マルシェ」の開催を通じて「国消国産」を推進しています。国産の農産物の魅力を伝え広めることが、未来の日本の食卓や農家を守ることに繋がります。



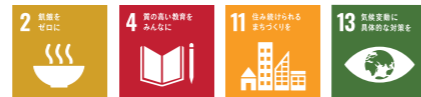
「国消国産」「地産地消」はSDGsの達成に貢献しています!



JA共済マルシェは農福連携や被災地支援など毎回さまざまなテーマを掲げて開催し、日本全国の農産物を応援しています!!

温暖化防止や環境保護に資する
取り組みにより、気候変動に代表される
地球環境問題の解決に貢献します。

フード・マイレージ低減に向けた
「地産地消」支援の取り組み



JA共済プレゼンツ
それいけ！アンパンマンミニショー＆握手会の開催

「JA共済プレゼンツ それいけ！アンパンマンミニショー＆握手会」では、一部のコーナーで食育をテーマとしたJA共済オリジナル絵本の配布や地域の特産品の展示を行い、ミニショーへ来場いただいた親子に、楽しみながら地域の「食」と「農業」について考えるきっかけを提供しています。



©やなせたかし/フレール館・TMS・NTV

県域における食育イベント・農業体験の開催支援

健全な食生活を実現するために、地域の農産物などを用いた食農教育活動に取り組んでいます。農業体験学習や親子料理教室は、小学校と連携した取り組みも多く、多様な組織と連携して実施することから、地域とのつながり強化にも貢献しています。



コラム

社会や経済の地盤は豊かな農山漁村から

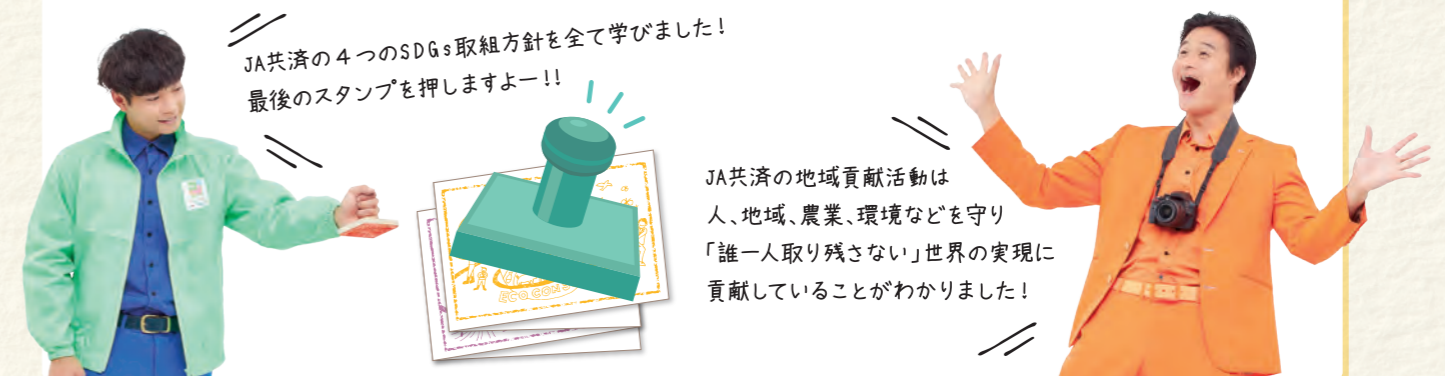
「誰一人取り残さない」世界を実現するために定められた「SDGs(持続可能な開発目標)」の17の目標。これらの目標の関係性を表す構造モデルに「SDGsのウェディングケーキモデル」があります。「目標17」を頂点として、残りの16の目標を上から順に「経済」「社会」「環境」の3つの階層に分類した構造モデルで、各目標同士が密接に関わっていることを示しています。

土台となる階層は「環境」です。豊かな自然環境を土台にさまざまなものが生み出され、社会や経済が成り立っていることがわかります。つまり、農山漁村で営まれてきた農業などの産業や自然と共存する文化を大切にすることが、SDGs達成の第一歩といえるのではないのでしょうか？

JA共済では、食育イベントなどを通じて、消費者の「国消国産」への理解促進を支援し、日本全国の地域農業を応援しています。また、「地産地消」は、農畜産物の運搬エネルギーの削減にもつながるため、自然環境を保護することにも通じるのです。



参考:Stockholm Resilience Centreウェブサイト



5 地域の実情に応じたさまざまな地域貢献活動

安全・安心な地域社会の実現や皆さまの健やかな生活を守るために、全国各地で地域の実情に応じたさまざまな活動に取り組んでいます。ここでは、その一部を紹介します。



北海道・東北エリア

- 北海道
- 秋田県
- 青森県
- 山形県
- 岩手県
- 福島県
- 宮城県



1 北海道

災害時の備えのため救急セットを配布

平成30年の北海道胆振東部地震の発生を受けて、いつどこで起こるかわからない大規模災害への備えとして、JAを通じて「救急セット」5万個を組合員をはじめ地域の皆さまに配布しました。令和元年度には非常用給水タンク、令和2年度には防災用簡易ライトを配布するなど、引き続き地域の防災対策に貢献していきます。



3 岩手県

農業の担い手育成支援のため実習用農業機械等を寄贈

農業の担い手の育成を支援するため、県内の農業関連高校に、トラクターおよび実習用農業機械などを寄贈しました。学生からは、最新の実習機械を使えることへの感謝の言葉のほか「地元農業に貢献できる人材になれるようがんばりたい」といった声をいただきました。平成30年度から取り組んできたこの活動も4年目を迎えましたが、今後も農業の担い手支援のために継続していく予定です。



5 秋田県

農業の担い手育成支援のため実習用トラクターを寄贈

地域農業の担い手の育成や農業生産技術の向上を図るため、県内の農業高校3校にトラクターを寄贈しました。寄贈式に参加した生徒からは「農業実習で使うのが待ち遠しい」などの声をいただきました。今後も引き続き、農業高校への支援をしていく予定です。



2 青森県

健康意識向上のためヘルスアップ講座を開催

地域の皆さまの健康維持・管理に対する意識の向上、健康づくりのサポートを目的に「～みんな元気に笑顔で暮らそう～JA共済ヘルスアップ講座」を開催しました。本講座では、JA共済オリジナルのレインボー体操や医師による講演を行うなど、総勢200人以上に参加いただきました。参加者からは、「運動をするきっかけになった」などと喜びの声をいただきました。



4 宮城県

特殊詐欺対策のため啓発資材を寄贈

高齢者を中心とした相次ぐ特殊詐欺の被害を防止するために「特殊詐欺被害防止通帳・カードケース」を制作し、県警察本部に寄贈しました。県内各警察署を通じて、防犯講話や巡回連絡などで高齢者に配布され、特殊詐欺への注意を通帳・カードケースを使用する度に促すことで、被害防止につなげています。



6 山形県

県産米の消費拡大のためレシピコンテストを開催

県産ブランド米「雪若丸」のさらなる認知度の向上と米の消費拡大を図るため、「雪若丸 どんぶりレシピコンテスト」を行いました。審査会では料理研究家(ごはんソムリエ)などの審査員による実食評価が行われました。また、粒が大きくしっかりした食感で丼もとの相性がよい「雪若丸」のおいしさをひきたてる新たな丼のメニューが発表され、好評をいただきました。



7 福島県

踊って楽しく学べる防災教室を開催

防災意識啓発活動「ふくしま防災アクション」の一環として、未就学児が緊急時に教職員や保護者の指示に従い、落ち着いて素早く行動できるよう「未就学児向け防災教室」を開催しました。開催にあたっては県内の消防署や気象台などと連携し、JA共済連福島オリジナルヒーロー「防災戦隊ポウサイザー」のステージショーや「ポウサイダンス」を通じて、楽しく防災知識を学んでいただきました。



いざ、日本一周!!
どんな地域貢献活動に出会えるか楽しみです!



ここからは
地域の実情に応じた
さまざまな地域貢献活動を見つけて行きましょう!

関東エリア

- 茨城県
- 千葉県
- 栃木県
- 東京都
- 群馬県
- 神奈川県
- 埼玉県



8 茨城県

子どもたちの安全を守るため
交通安全帽子を寄贈

県内の小学校1年生に視認性の高い黄色い「交通安全帽子」2万4,200個を寄贈しました。同取り組みは昭和52年度から継続しており、これまでに約163万人の子どもたちの安全を守ってきました。帽子は登下校時だけでなく、遠足時などにも活用いただいています。



9 栃木県

農業の担い手育成のため
実習用農業機械を寄贈

次代の農業者(担い手)育成に貢献するために、県立農業大学校に実習用農業機械を寄贈しました。知事からは「次代を担う意欲ある農業経営者の育成に結び付けたい」との言葉をいただきました。実習での活用を通じて、就農後の農業経営に役立つことを期待しています。



10 群馬県

子どもたちの健やかな成長をサポート
するため学用品購入費用を寄付

子どもたちの健やかな成長を願い、県内の児童養護施設8か所、乳児院3か所、児童館65か所に対して、学用品や図書購入などの費用を寄付しました。寄付金は、退所時にプレゼントする誕生日やお宮参りなど成長の思い出を記録したアルバム制作費に活用されるなど、子どもたちの健全な育成に役立てられています。



11 埼玉県

県産農産物の魅力を発信するため
ドライブラリーを開催

地域の皆さまに県産農産物の魅力をPRするため、県内のJA農産物直売所や収穫体験施設などを自家用車で巡り、買い物や収穫体験を行う「ドライブラリー」を開催しました。エリアが異なるコースを複数用意して各コース内で県産農産物を使用した昼食を提供したほか、農産物の収穫や稲作体験、茶摘み体験などを実施し、農産物の魅力を伝えました。令和3年5月～令和4年3月までに884組・3,733人の方に参加いただいています。



12 千葉県

農業の実践教育充実のため
最新の農業機械を寄贈

農業後継者育成と最新農業機械を利用した実践教育の充実に向け、県立農業大学校にトラクター2台、乗用運搬車2台、ミニショベル1台、ネギ管理機2台を寄贈しました。寄贈に対して知事より感謝状が授与されるとともに、県農林水産部長からは「学生の意欲向上となり、有意義に活用されています」と感謝の言葉をいただきました。



13 東京都

応急手当の重要性を伝えるため
AED訓練機材を寄贈

救急隊到着前の応急手当の重要性を多くの方に理解していただくため、訓練用の自動体外式除細動器(AED)など60セットを東京消防庁に寄贈し、感謝状をいただきました。普通救命講習会でAED訓練機材を活用していただくことで、多くの方に緊急時に大切な人や家族の命を守る応急手当の方法を身につけていただきたいと願っています。



14 神奈川県

県内農業振興のため
収穫体験ツアーに協賛

県内の収穫体験施設やJA直売所を自家用車で巡る「スタンプラリーツアー」に協賛しました。コースを巡った参加者に、ゴールの昼食会場で地域農産品などがプレゼントされ、ツアーを通じて県産農産物の魅力をPRすることができました。

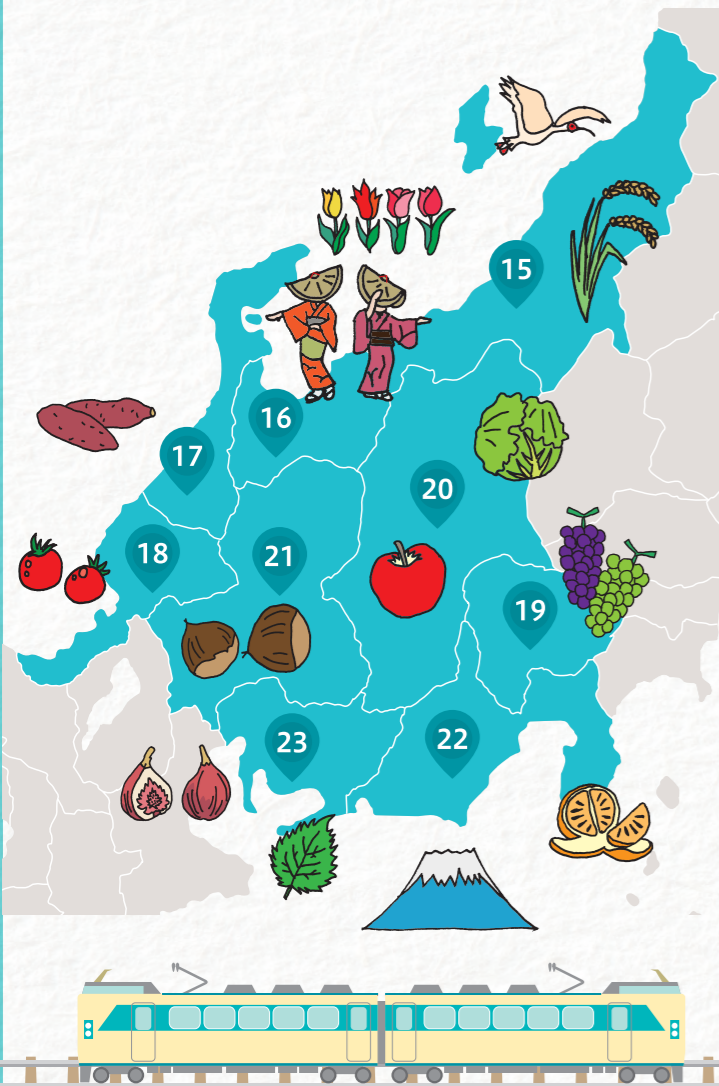


関東エリアに突入!
さあ、この調子でどんどん
見つけていきましょう!!



中部エリア

- 新潟県
- 福井県
- 岐阜県
- 富山県
- 山梨県
- 静岡県
- 石川県
- 長野県
- 愛知県



15 新潟県

子育て&食育を応援するため 親子向けオンラインイベントを開催

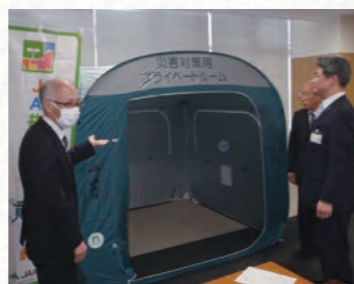
地域に暮らす子育て世帯を対象に、子育て&食育応援オンラインイベント「親子で一緒にうち遊び」を計5日間・10回開催し、739世帯・2,348人(子ども1,169人)に参加いただきました。参加者からは「食育クイズは親子で楽しめて非常に勉強になりました」「子育ての悩みは案外みんな同じだと知り、気が楽になりました」など多くの感謝の声をいただきました。



16 富山県

避難所設備を充実させるため 災害対策用テントを寄贈

災害発生時に、地域の皆さまがコロナ禍でも安心して避難所を利用していただけよう、県内市町村に災害対策用テントを寄贈しました。「避難所設備に活用できる防災品は非常にありがたい」などの感謝の声をいただきました。平成29年度より災害用簡易トイレなどの防災品を寄贈しており、今後も災害対策の充実に貢献していきます。



18 福井県

子育て世帯を応援するため 母子手帳ケースを寄贈

子育て世帯を応援するため、県内の市役所・町役場に母子手帳ケース約6,200人分を寄贈しました。寄贈式では県の健康福祉部長より全国的に出生数が減少するなかでの子育て支援に感謝の言葉をいただきました。寄贈品は各市町の母子手帳交付窓口から配付され、ケースを手にした妊婦の方からは、「野菜や果実をモチーフにJAらしさを感じるデザイン」などと好評をいただいています。



19 山梨県

青少年の健全な育成のため 少年野球大会に協賛

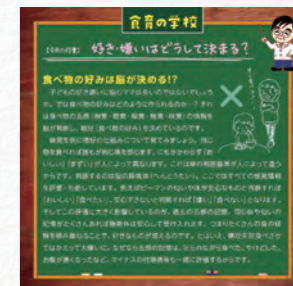
県内のスポーツ振興と青少年の健全な育成をめざし「山日YBS杯山梨県少年野球大会」に協賛しました。令和3年度に開催された第58回大会では、県内10地区・82チームが参加し、予選を勝ち抜いた代表16チーム・320人が優勝をかけて熱戦を繰り広げました。この大会を通じて、子どもたちが甲子園、プロ野球、メジャーリーグをめざしたり、スポーツを長く楽しむきっかけになることを願っています。



21 岐阜県

子育てを支援するため 母子手帳ケースを配布

県内各市町村で母子手帳を受け取る全ての妊婦の方に、地域貢献活動の取り組みを紹介するカードを封入した「オリジナル母子手帳ケース」を配布しています。また、子育て世代を継続的にサポートするため、子育て支援SNS「JA共済こそだてひろば(岐阜県)」にて、さまざまなお役立ち情報を発信しています。



22 静岡県

子育て世代を応援するため 親子イベントに特別協賛

子育て支援および地域の活性化を目的に、地元テレビ局主催の子育て応援イベント「シズオカンキッズ応援隊」に特別協賛しました。イベントには子ども連れの家族を中心に約4,200人が来場し、ステージショーなどを楽しんでいただくとともに、JAおよびJA共済の取り組みも知っていただくことができました。



17 石川県

農業振興活動を紹介するため オリジナルミニテレビ番組を制作・放送

農業に携わる生産者やJAの取り組みを広く皆さまに知っていただくために、テレビ番組「JA探訪 地域に笑顔を！」を放送しています。番組では県内のJAが実施している地域・農業振興活動を紹介しており、視聴者からは「こんなことをしているとは知らなかった」「JAのことをもっと知りたい」などの反響をいただくとともに、JAの活動やイベントに参加した方からも活動を応援する声をいただきました。



20 長野県

農作業の効率化・高度化のため スマート農業導入を支援

スマート農業の導入促進による農業労働力不足などの解消と農作業効率化・高度化に向けて、農業散布用ドローンの購入費用を助成しました。農業散布用ドローンは、使用農薬数量の軽減、平地に比べて不利な中山間地や傾斜地などの圃場での作業効率の向上や農作業を行う方の体の負担軽減につながっています。



23 愛知県

地元農業の活性化に向け テレビ番組を制作・放送

地元農業と地域の活性化を目的としたテレビ番組を制作しました。本番組は生産者へのインタビューや特産品の収穫体験、調理方法および産直施設の紹介などを通じて、農業全般について学ぶことができます。また、SNSにて情報を発信することで、次世代層との継続的な接点づくりも同時に行いました。

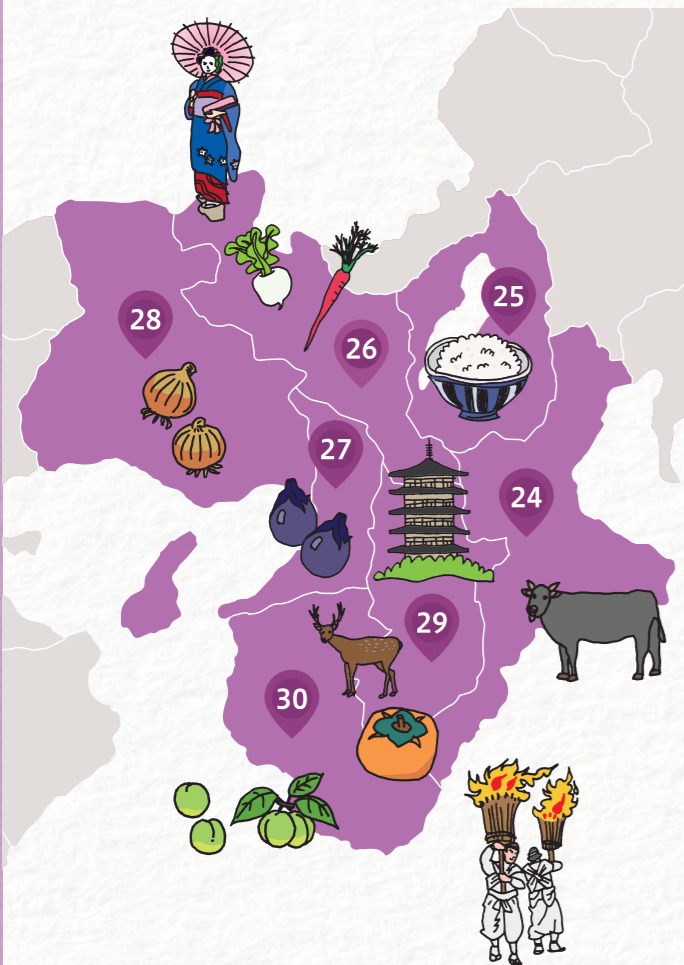


中部エリアにも
さまざまな分野の
地域貢献活動の輪が
広がっていますね!



近畿エリア

- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県



西日本に突入！
まだまだいきますよー！

24 三重県

子どもたちの安全を守るため 「子ども安全・安心の店」として地域に貢献

子どもたちが身の危険を感じた際にいつでも駆け込める三重県警察本部認定「子ども安全・安心の店」であることを県内の小学生および地域の皆さまへ周知するため、小学校の通学路付近に認定されたJA支店・事業所を案内する電柱看板を設置しました。また、認定されたJA支店・事業所を紹介するパンフレット・クリアファイルを県内の小学校に配布することで「子ども安全・安心の店」の所在地を周知し、安心できる地域づくりに貢献しています。



25 滋賀県

子どもの感染症予防を啓発するため オリジナルランチョンマットを配布

県内のJAを通じて子ども向けの感染症予防啓発オリジナルランチョンマット2万5,000枚を子育て世帯へ配布しました。家庭内での感染症予防を啓発するため正しい手洗い方法や健康な体づくりに必要な食事について興味を持って学べるよう、JA共済オリジナルキャラクター「ひとのわぐま」のイラストなどを用いた可愛いデザインとしています。



26 京都府

環境保全に貢献するため 農業用生分解性マルチを配布

政府が掲げている「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」の達成に向け、環境に優しい農業資材の導入・利用拡大が求められるなかで、廃プラスチック削減に資する取り組みとして「農業用生分解性マルチ」を農家・組合員に配布しました。微生物によって土壌で分解される「農業用生分解性マルチ」素材を主に使うことで、土壌での分解から環境保全にも貢献できる取り組みです。



27 大阪府

歩行者の安全を守るため 「横断歩道ハンドサイン運動」を支援

平成30年度より大阪府警が推進している「横断歩道ハンドサイン運動」の啓発を支援しています。本取り組みは、主に信号機が設置されていない横断歩道などで歩行者の安全を確保することを目的としており、令和3年度は大阪芸術大学と産学連携によるコンテスト形式でポスターを制作しました。また、YouTubeや新聞広告を通じて啓発活動を行い、大阪府警や大学関係者から感謝の言葉をいただきました。



28 兵庫県

農業者の育成を支援するため 実習用農業機械を寄贈

次代の農業の担い手育成支援を目的に、県立農業大学校、県立佐用高等学校、県立上郡高等学校に実習用農業機械を寄贈しました。令和3年度で6年目を迎える本取り組みについて寄贈先の校長先生から感謝の言葉をいただくとともに、生徒からは「就職先に近い環境で実習が行える」などの喜びの声をいただきました。



29 奈良県

児童の交通事故防止のため 交通安全傘を寄贈

児童を交通事故から守り、安心して暮らせる地域社会づくりに貢献することを目的に、小学校1年生を対象とした「反射材付きの交通安全傘」1万2,400本を県交通安全協会に寄贈しました。平成26年度から寄贈した傘の累計は10万4,000本にのぼり、交通安全協会の会長からは「雨天時の交通事故防止に大きな効果がある」と感謝の言葉をいただきました。



30 和歌山県

地域農業の振興のため 実習用の農機具を寄贈

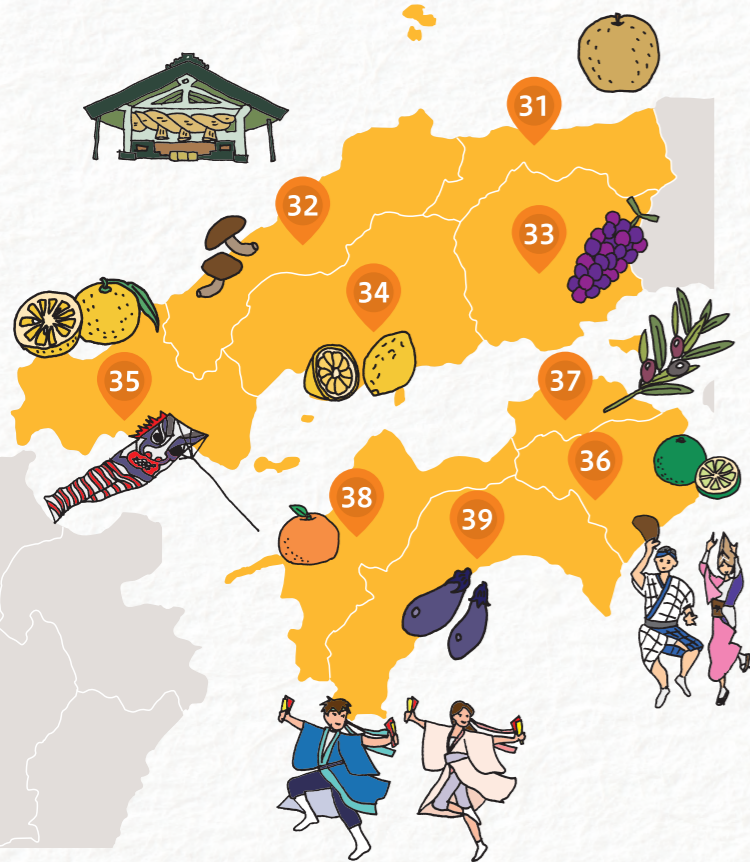
地域農業の振興と農業経営安定化の支援を目的に、県立農林大学校と、農業系の学科を持つ県立紀北農芸高等学校、県立有田中央高等学校、県立南部高等学校および県立熊野高等学校に実習用の農機具を寄贈しました。農林大学校には野菜栽培ハウス環境制御施設など、また県立高校には土壌分析装置やトラクターなど、合計26品目を寄贈し、県教育委員会教育長より感謝の言葉をいただきました。



それぞれの都道府県で
自分たちの地域に
必要な取り組みを考えて
実施しているんですね！

中国・四国エリア

- 鳥取県
- 広島県
- 香川県
- 島根県
- 山口県
- 愛媛県
- 岡山県
- 徳島県
- 高知県



31 鳥取県

コロナ禍で経済的な影響を受けている学生たちへ特産米「星空舞」を寄贈

コロナ禍により経済的な影響を受けている県内の学生支援を目的に、鳥取大学、鳥取環境大学に県特産米「星空舞(ほしぞらまい)」(1袋2kg)を1,200袋寄贈しました。鳥取大学の学長より「このお米を食べて鳥取県の農業や地域に関心を持ってもらいたい」との言葉をいただき、また、鳥取環境大学の学生からは「お米の配布を通じて、学生生活を健康に過ごすとともに人とのつながりを再構築していきたい」などの声をいただきました。



32 島根県

安全・安心な地域づくりのため防犯カメラを寄贈

安心して暮らせる地域づくりに向けて、県防犯連合会に防犯カメラ120台を寄贈しました。平成28年度から6年間で累計600台を寄贈し、犯罪の検挙や交通事故の調査などにお役に立っています。今後も安全・安心な地域づくりに向け、防犯カメラを各所に設置するとともに、地域の皆さまの防犯意識向上に貢献していきます。



33 岡山県

「子ども110番の家」を周知するためセーフティーコーンを寄贈

子どもたちが危険に遭遇したときや困ったときに助けを求められる「子ども110番の家」を地域の皆さまにわかりやすく案内するため、目印となる黄色いセーフティーコーン1,501本を県内100の小学校に寄贈しました。児童が安心して暮らせる地域環境づくりの取り組みとして、PTAや地域の皆さまから感謝の声をいただきました。



子どもたちの安全・安心な暮らしに貢献していますね！

34 広島県

地域の活性化のため親子イベントを開催

地域の活性化のため、子育て世代を対象とした「JA共済 すくすく夢フェスタ」を開催しました。人気キャラクターによるショーのほか、JA女性組織協議会によるリサイクル素材のものづくり体験ブースも出展されるなど、家族が楽しめる体験型イベントに多くの方が参加し、喜びの声をいただきました。



35 山口県

子どもたちの健康サポートのためこども食堂に新米を寄贈

次代を担う子どもたちに地元農家・組合員が丹精込めて作った新米を食べてもらい、元気に成長してほしいという想いから、「こども食堂」に県産の新米を寄贈しました。新米は山口県こども食堂・子どもの居場所ネットワークの代表へ手渡され、合計3tの新米が県内100か所のこども食堂に30kgずつ贈られました。



37 香川県

高校生の青春を応援するためオンライン文化祭を開催

コロナ禍の影響により部活動などにおける発表の機会を失った県内の高校生に「あおはる(青春)」の思い出づくりの場を提供することを目的に、オンライン文化祭「あおはる応援フェス」を開催しました。審査で選ばれた代表15組の個人・グループを取材した「生徒が主役のドキュメンタリー動画」をインターネット上で公開し、高校生の活動を全国に発信。生徒の保護者から、晴れ舞台を見ることができた喜びの声が寄せられました。



38 愛媛県

夕暮れ・夜間の交通事故防止のためオリジナル反射材グッズを寄贈

夕暮れ時や夜間における歩行者・自転車の交通事故防止を願い、歩行者向けの「反射タスキ」と自転車利用者向けの「サイクルリフレクター(自転車用反射材)」を作成し、県交通安全協会に寄贈しました。小学校などで実施される自転車安全運転教室などで配布・活用され、交通事故防止に役立てられています。



36 徳島県

子育て支援と交通安全啓発のためドライブインシアターを開催

子育て支援と交通安全啓発を目的に、小さな子どもを持つ家族向けに大型公園施設「あすたむらんど徳島」で、「JA共済ファミリードライブインシアター」を開催しました。抽選により親子連れ250台・計830人の参加者が自動車の中から映画や交通安全啓発映像を鑑賞しました。コロナ禍の影響により、外出の機会が減っていた子どもたちからは大きな歓声が上りました。



39 高知県

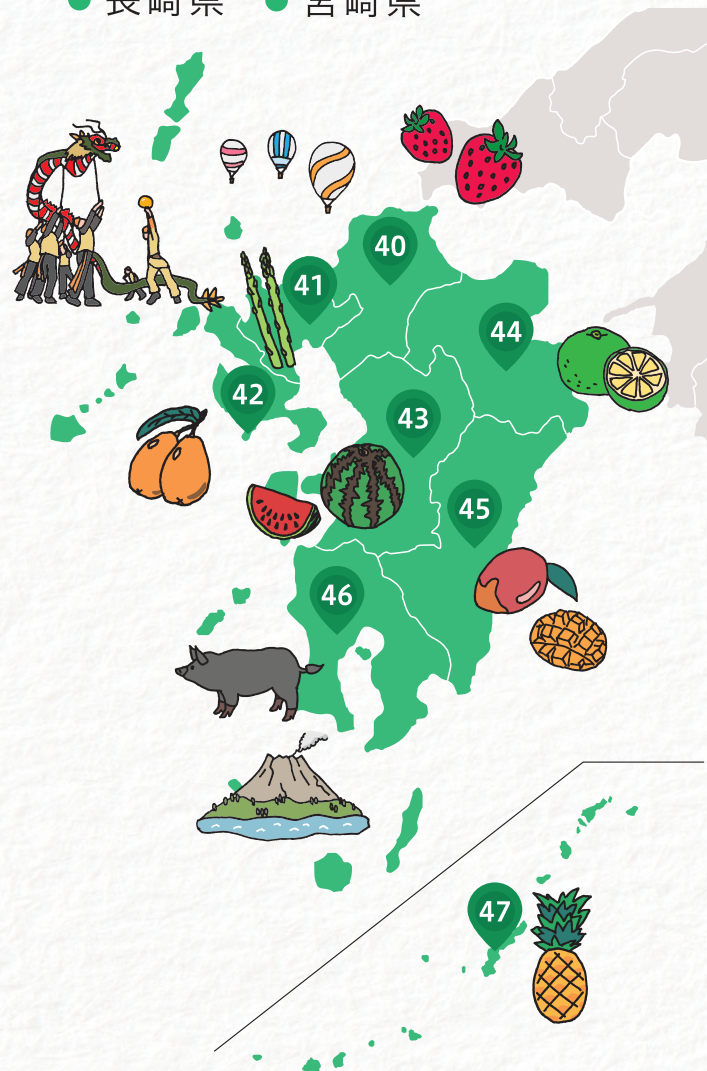
小学校等の交通安全指導のため交通安全教室用の信号機を寄贈

地域の交通事故防止に向けた取り組みとして、小学校などで行う交通安全教室用の信号機2基を安芸警察署に寄贈しました。寄贈した信号機は1基ごとに自動車・歩行者用の信号が取り付けられており、小学生などに横断歩道の渡り方などをわかりやすく指導することができます。新入生を迎える4月に実施する交通安全教室をはじめ、幅広い世代に向けた交通安全啓発に役立つことを願っています。



九州・沖縄エリア

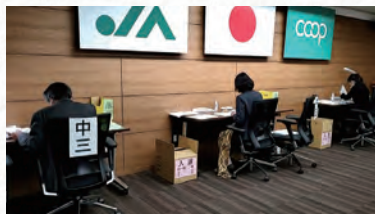
- 福岡県
- 熊本県
- 鹿児島県
- 佐賀県
- 大分県
- 沖縄県
- 長崎県
- 宮崎県



40 福岡県

小・中学生の豊かな感性を育むため 作文コンクールを開催

子どもたちの心の豊かな成長を願い、「第57回 JA 共済 小・中学生作文コンクール」を開催しました。令和3年度は県内276校から推薦された3,428点の作品が審査されました。家族や学校生活といった身近な出来事から社会で起きたことまで幅広い事柄をテーマに、豊かな感性で綴られたすばらしい作品に出会うことができました。最優秀賞受賞作品は、JA共済連福岡のホームページに掲載しています。



41 佐賀県

“さが農業”を応援するため バラエティー番組を制作

コロナ禍の影響により厳しい状況にある農業者を支援し、地産地消を促進するため、著名なタレントが県内の農業者や農業学校の学生とふれあい、農業体験を行う様子などを紹介するテレビ番組「熱血農業バラエティー農カモン」を制作しました。佐賀県限定のローカル放送でありながら最高視聴率は18%（平均12.6%）を記録するなど、半年間にわたって農業の魅力を多くの方へ届けることができました。



43 熊本県

貧困・食品ロスの削減のため 食品乾燥機を寄贈

SDGsで掲げる目標の1つである「貧困をなくそう」の実現と食品ロス削減に向けた取り組みとして、JA熊本県女性組織協議会へ食品乾燥機を寄贈しました。食品乾燥機は、同協議会ならびにJA女性部で作ったドライフード（乾燥野菜）を子ども食堂に無償提供する活動に役立てられています。



44 大分県

農業者と赤十字血液センター支援のため 地元農産加工品を寄贈

コロナ禍の影響により厳しい状況にある農業者と赤十字血液センターの支援を目的に、献血協力者に提供いただく調味料やドレッシングなどの農産加工品を大分県赤十字血液センターに寄贈しました。同センターからは「おかげさまで献血の予約率が増加しています」などと感謝の声をいただいております。今後も取り組みを強化していきます。



46 鹿児島県

コンクール入賞作品紹介を 特設ホームページやCMで放映

毎年開催している「小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクール」の表彰式がコロナ禍の影響により中止となったことを受け、令和3年度の県内の特別賞・金賞作品を閲覧できる特設ホームページを開設するとともに、入賞作品を用いたCMを放映しました。多くの方にご覧いただくことで、地域の皆さまに入賞作品やJA共済の文化支援活動を知っていただくよい機会となりました。



47 沖縄県

安心して暮らせる地域づくりに向けて 感染症対策用機器を寄贈

新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的に、県内の小中学校と図書館、JA関連施設に対し、サーマルカメラ67台、消毒スプレー（アルコール噴霧器）566台を寄贈しました。JA会館で行われた寄贈式では、JAおきなわの理事長が「沖縄県全域に緊急事態宣言が発出されるなか、感染防止に役立てていただきたい」と述べ、安心して暮らせる地域づくりに向けて、各種機器を活用していただきました。



45 宮崎県

生活利便性向上のため 移動販売車を寄贈

中山間地域に居住する組合員・地域住民の生活利便性向上を目的に、移動販売車「とくし丸」をAコープへ寄贈しました。販売ルートにある中山間地域の居住者からは「車を持っていないため買い物に行くまでに時間がかかり困っていたが、移動販売車が来てくれて非常に助かります」などと感謝の声をいただきました。



42 長崎県

児童の交通事故防止のため 黄色い学童傘を寄贈

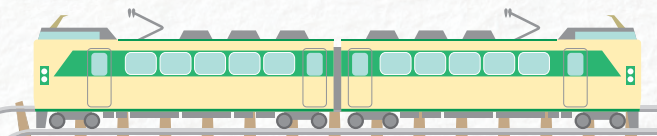
地域の交通事故防止に貢献するため、令和元年度より毎年、県内の小学校1年生を対象に黄色い学童傘を寄贈しています。学童傘は教育委員会を通じて小学校へ配布され、寄贈先の教員からは、「傘とともに交通安全と児童の成長を祈る気持ちも受け取りました」「子どもたちの元気が出るような贈り物をいただきありがとうございます」などと感謝の声をいただきました。



いよいよラストスパート！
九州・沖縄エリアを
巡りますよー！！



地域を支える取り組みが
日本全国に広がっているんですね！



日本全国に広がるちいきのきずなを
ノートにまとめました!!

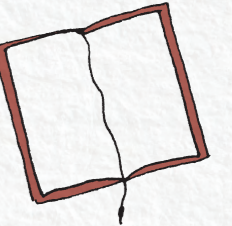
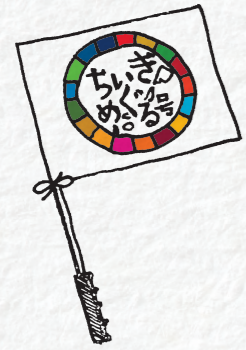
「ちいきのきずな発見ノート」を
☆ みんなで見てください! ☆

日本全国

ちい

きずなを
思い出を、復興支援、
4つのSDGs活動を通じて、
つなぐことができますね!

農業振興
農業リスク
を通じて、農業
農業の未来



EXCITING!

Let's OPEN!

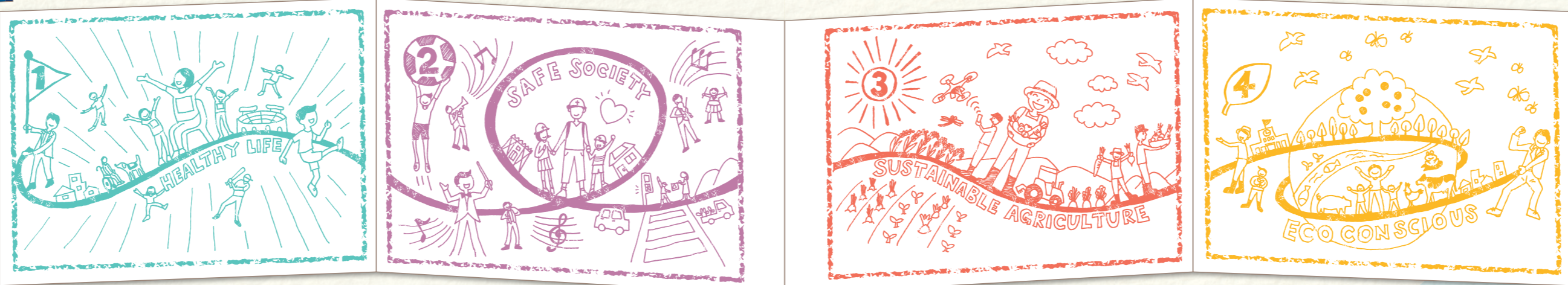


ちいきめぐる号

ちいきのきずな発見ノート

きずなのレールをたどる「JA共済地域貢献活動見学ツアー」で、日本全国を巡った旅の思い出を、ノートにまとめました！
4つのSDGs取組方針スタンプを集めながら地域貢献活動を楽しく学ぶことができました！

JA共済 SDGs取組方針 発見スタンプカード

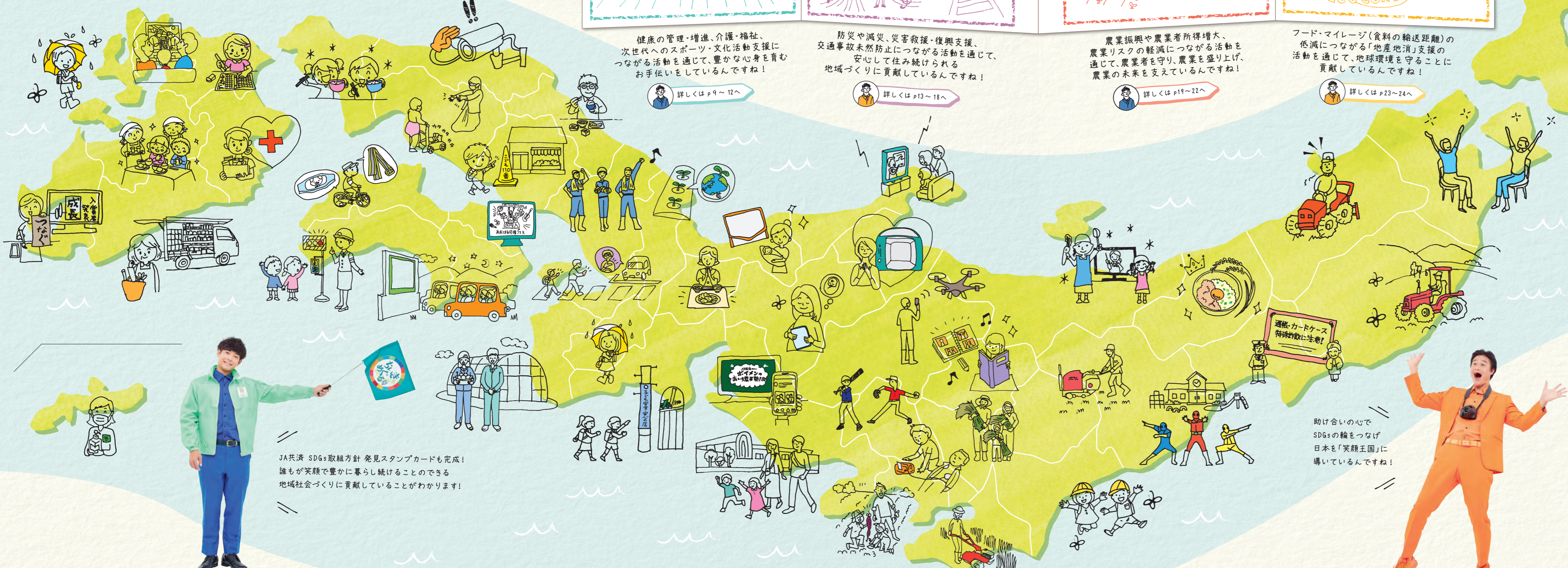


1 健康の管理・増進、介護・福祉、次世代へのスポーツ・文化活動支援につながる活動を通じて、豊かな心身を育むお手伝いをしているんですね！
詳しくは p.9~12へ

2 防災や減災、災害救援・復興支援、交通事故未然防止につながる活動を通じて、安心して住み続けられる地域づくりに貢献しているんですね！
詳しくは p.13~18へ

3 農業振興や農業者所得増大、農業リスクの軽減につながる活動を通じて、農業者を守り、農業を盛り上げ、農業の未来を支えているんですね！
詳しくは p.19~22へ

4 フード・マイルージ(食料の輸送距離)の低減につながる「地産地消」支援の活動を通じて、地球環境を守ることに貢献しているんですね！
詳しくは p.23~24へ



JA共済 SDGs取組方針 発見スタンプカードも完成！
誰もが笑顔で豊かに暮ら続けることのできる地域社会づくりに貢献していることがわかります！

助け合いの心でSDGsの輪をつなげ日本を「笑顔王国」に導いているんですね！



ティモンディの旅日記

JA共済は、地域貢献活動と通いて、全国のみんなにきずなと笑顔と届けているんですね！

前田 裕平

JA共済は、全国各地で様々な地域貢献活動を行うことで助け合いとSDGsの輪をつなげていることがわかりました！

高岸 孝行

JA共済の地域貢献活動ホームページ 「ちいきのきずな」お役立ちコンテンツのご紹介

JA共済の地域貢献活動ホームページでは、地域貢献活動の詳しい内容をご覧いただけるほか、お子さまも楽しく学べる交通安全コンテンツや、家族みんなの健康レシピなど、暮らしに役立つ「お役立ちコンテンツ」を多数紹介しています。個人や家庭、学校でダウンロードし、活用いただける資料も多数掲載しています。



健康・福祉に関するコンテンツ

自宅で簡単にできる体操、野菜を使ったレシピなど、健やかに暮らしに役立つ情報を多数掲載しています。



健康サポート情報局

レシピ、介護、体操、Dr.コラムと専門家からの健康に関する情報が満載



Rainbow Action With You

家族みんなで健康増進体操



防災・災害救援に関するコンテンツ

日頃から備えるべき防災・防犯対策の情報や「震災からの心の復興」をめざす東北ユースオーケストラの取り組みを紹介しています。



やればできる!
ティモンディの地震塾

地震への備えの大切さを学べる



くらしを守る
1アクション

防災・防犯のための備えを紹介



共に奏でた、
10年。

東北ユース
オーケストラの
取り組みを紹介



交通事故対策に関するコンテンツ

幼児からシルバー世代まで、幅広い世代の方々に楽しみながら交通安全について学んでいただける情報を掲載しています。



子ども交通安全タウン

〇×クイズなどで
交通ルールを学べる



交通安全!
百科事典

交通安全の知識などを
世代別に紹介



きずな町物語

シルバー世代へ
映像やチラシで紹介



小学生向け 交通安全教育ムービー

歩行中や自転車走行中の
交通ルールとマナーを紹介



中・高生向け 映像で学ぶ! 自転車交通安全教室

学校の授業で活用いただける
交通安全教育動画を紹介



生活支援・農業振興に関するコンテンツ

自宅で簡単にできる野球の練習方法や、国産の農畜産物を使った、家族で楽しみながら調理できるレシピを紹介しています。



HOME BASEBALL

専門家が教える自宅でできる
野球の練習方法を紹介



ピーヤキッチン
メモリアル

ローストビーフパフェの
レシピを紹介

